

Al Vi Kara

N-ro 96, decembro 2008



*Fotis s-ro Kawagoe.

Jen estas ekspoziciaĵoj de nia societo en la Panela Ekspozicio, okazigita de la 31a de aŭgusto ĝis la 8a de septembro, 2008. Vidu la 3an paĝon.

ENHAVO

Ni vige agadas en Kioto ! (活動報告)

京都府国際センターでの国際活動パネル展	3 p
エスペラント入門講習会	3 p
第95回日本エスペラント大会	4 p
藤本達生さんが小坂賞を受賞	4 p
外国からのお客様(8月~10月)	5 p
第2回ボランティア・市民活動フェスタに出展	9 p
2008年エスペラント祭	11 p
新会員の自己紹介(山内 利朗)	13 p
La Movado 誌上で当会会員が活躍しています(相川 節子)	15 p
“La Edzino de Hanaoka Seisyû”(Aikawa Setuko)	16 p
PRI LA ŜANGĪĜO DE KOLORO (KAWAGOE Kan)	18 p

京都エスペラント会・例会

毎週水曜日・午後7時から9時まで、エスペラント会館にて

エスペラント教授法の講習会

毎週水曜日・午後7時30分から9時まで、エスペラント会館にて

有志の学習会

毎週月曜日・午前10時30分から12時まで、エスペラント会館にて

子連れ参加も歓迎

有志の研究会

毎週木曜日・午後7時~9時、エスペラント会館にて

有志の土曜日のおしゃべり会

毎週土曜日・午後2時~4時、京阪丹波橋駅西側の喫茶店「リーブル」

Ni vigle agadas en Kioto !

このコーナーは、京都エスペラント会の月刊の活動情報誌「事務局通信」(川越 幹さん編集)やブログ (http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/) の記事を元に、主な活動を紹介するものです。

京都府国際センターでの国際活動パネル展

Panela Ekspozicio pri Esperanto en la Kiota Internacia Centro

- ・日時 8月31日(日)～9月8日(月)
- ・場所 京都府国際センター(京都駅ビル9階)
- ・概要 このエスペラント展示は、もう恒例になっていて、同センターも共催して頂き、毎回エスペラントのPRに貢献しています。今回も特に期待出来るような若い学生さん数人にエスペラントを理解して頂き、他にも、男女中国人留学生が、エスペラントの主旨、内容の説明にすなおに耳を傾けてくださったのは、一つの成果と思っています。(川越 幹)

エスペラント入門講習会

Elementa Kurso de Esperanto en la Kiota Internacia Centro

- ・日時 9月6日(土)午前10時～12時
- ・場所 京都府国際センター(京都駅ビル9階)
- ・概要 エスペラント入門講習会は、講習参加者が11名(中4名が初参加者)そして講師と笹沼会長及びスタッフ3人の体制で行いました。
講習方式は「エスペラント語でエスペラント語を学ぶ速習入門講習会」と題して、国際エスペラント学会認定講師の資格を所持される Yas・川村氏による直接教授法「チェ・メトード」により行われました。
この方法は、エスペラント語だけによるエスペラントの教授法で、一切日本語を介さず、明解なジェスチャーによる五感を動員した教授法で、全員神経を集中して受講されていました。
その中の1、2の方がエスペラントに興味を示されていました。今回の行事は、京都エスペラント会の恒例行事として、来年も開催する予定です。(川越 幹)



Yas さんの入門講習会

第 95 回日本エスペラント大会

- ・ 日時 10月11日(土)～13日(月)
- ・ 場所 和歌山県民文化会館
- ・ 参加者 480人(不在参加を含む)

当会の正会員・準会員の参加者(五十音順、敬称略、*は不在参加)

相川 節子、川越 幹*、川西 徹郎、後藤 美和*、小橋 良太郎、
笹沼 一弘、田平 正子、津田 昌夫*、藤本 達生、光川 澄子、
森川 和徳、吉川 奨一、山本 鳩江

- ・ 日本大会のホームページ

<http://sky.geocities.jp/jesperantok08/>



日本大会のシンボルマーク

藤本達生さんが小坂賞を受賞！

当会会員の藤本達生さんが峰芳隆さんとともに 2008 年の小坂賞 (Premio Ossaka) を受賞されました。受賞理由は「エスペラント学習書執筆と実践力養成指導」。

日本大会の 1 日目 (10 月 11 日) に小坂賞記念講演会 (Prelegoj memore al la Premio Ossaka) が開催され、藤本さんは「Paroli kaj skribi / 話すことと書くこと」について講演されました。

小坂賞は、「日本エスペラント運動の父」と称される小坂狷二(おさかけんじ)の功績を記念して制定され、現在は財団法人日本エスペラント学会の賞となっています。

毎年、日本エスペラント学会は賞の候補者への推薦を公募し、学会内の小坂賞委員会が審査の上、授賞者を決定しています。 (森川 和徳)

外国からのお客様 (8月～10月)

毎週水曜日の例会に外国からのお客様に出席していただきました。

* 8月6日(水)

De 7:00 ĝis 9:00 ptm. en la 6a de aŭgusto (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 10: 4 gastoj el Italio kaj el nia societo 6: s-inoj T, M, A, s-roj KK, Y, YN.

Kvar italoj partoprenis en nia kunveno. Tri el ili estas vid-handikapuloj kaj unu estas vidanto. Inter ili estis gesinjoroj GRASSINI. La edzo estis la prezidanto de LKK en la Florenca UK. La vidanto, juna sinjorino, estas stabano de muzeo "Omero". En la muzeo oni povas tuŝi kaj palpi artaĵojn. Sekve ankaŭ blinduloj povas aprezi artaĵojn. Ili venis al Japanio por prelegi pri la muzeo. Ĝia retejo estas skribita en tri lingvoj: itala, angla kaj Esperanto.

<http://www.museoomero.it/>

Matene ili veturis de Kioto al Hirosimo, ĝuste en la tago de la atombombo. Ili partoprenis en ceremonio por paco kaj vespere revenis al Kioto.

Ni multe parolis en Esperanto. En la kunveno du sinjorinoj vestis la junan sinjorinon per kimono. Vidu la foton en la sekvanta paĝo!

イタリアから4人のお客様が出席してくださいました。そのうち3人は視覚障害者です。その中に、GRASSINIさん夫妻がおられました。GRASSINIさんはフィレンツェでの世界大会で国内大会委員長をされた方です。晴眼者の若い女性は、イタリアのアンコーナにある美術館「Omero」のスタッフです。この美術館では、美術品をさわることができますので、盲人も美術品を鑑賞できます。また、この美術館のサイトは、イタリア語・英語・エスペラントの3言語で書かれています。Omeroとは、ギリシャの盲目の吟遊詩人ホメロスのことです。

今朝、4人のみなさんは京都から広島へ移動し、平和記念式典に参加、夜は京都エスペラント会の例会に参加するため京都へ戻ってきてくださいました。

今日もエスペラントでたくさんお話をすることができました。会員のうちふたりが、お客様のひとりに浴衣を着せてさしあげました。次ページの写真をご覧ください。

(相川 節子)



前列左から Aldo・Daniela GRASSINI 夫妻、s-ro Piero PALADIN
左から 3 人目の浴衣姿は同伴者の s-ino Monica Barnacchia

* 9 月 17 日(水)

De 7:00 ĝis 9:00 ptm. en la 17a de septembro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan
ĉeestis 5: s-ro Frank Stephan el Singapuro, s-inoj T, A, s-roj KK, YN.

S-ro Stephan, germano loĝanta en Singapuro, partoprenis en la kunveno.

Por partopreni en faka konferenco li venis al Kioto. Li tamen afable trovis tempon
viziti nian kunvenon.

Li multe parolis pri diversaj temoj--laborkondiĉoj de dungitoj en Singapuro, pri
balotado de la prezidento de Usono, pri ekonomia stato en Usono kaj Eŭropo...

Ni aŭskultis lin kun granda intereso.

シンガポール在住のドイツ人,
Frank Stephan さんが出席してく
ださいました。学会出席のため京都
に来られたのですが、忙しい日程の
中、例会においていただきました。

話題の豊富な方で、アメリカの大
統領選挙のことやら世界経済の問
題やら、時のたつのを忘れて聞きま
した。(相川 節子)



* 10月1日(水)

De 7:00 ĝis 9:00 ptm. en la 1a de oktobro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 6: s-ino Marie-France Conde Rey el Francio, s-inoj T, A, N, s-roj KR, YN.

En nia kunveno partoprenis sinjorino el Francio. Nun emerito ŝi estas, sed ŝi longe laboris kiel instruisto. Ni aŭskultis ŝin pri ŝia laboro por infanoj, kiuj havas malfacilojn en lernado.

フランスからのお客さまをお迎えしての例会でした。

学習障害児の教育に長年尽くして来られた女性で、その経験などを話していただきました。
(相川 節子)

* 10月8日(水)

De 7:00 ĝis 9:00 ptm. en la 8a de oktobro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 6: s-ro Ionesov el Uzbekio, s-roj KT, YN, H, s-inoj T, A.

Ni havis gaston s-ron Anatoli Ionesov el Uzbekio. Li venis al Kioto por partopreni konferencon de Muzeoj pri Paco. Iel trovante tempon li afable vizitis nian kunvenon. Li parolis pri Samarkando montrante librojn kaj aliajn materialojn.

Lia prononco estas klara kaj facile aŭdebla. Li ankaŭ lerte paroligis komencantojn demandante al ili per facilaj frazoj.



今日はウズベキスタンからのお客さま、Ionesov さんを迎えての例会です。平和博物館の国際会議のために京都へ来られました。お忙しい中、時間を見つけて例会にきてくださったのです。サマルカンドについての本や写真を見せていただきました。

わかりやすい発音で、初心者にはやさしい質問をして、じょうずに会話の訓練をしていただきました。
(相川 節子)

* 10月15日(水)

De 7:00 ĝis 9:00 ptm. en la 15a de oktobro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 6: s-ino Mireille Grosjean el Svisio, s-roj KY, KT, YN, s-inoj T, A.

De la 11-a ĝis al 13-a de oktobro oni havis Japanan Esperanto-Kongreson kun 480

kongresanoj. En ĝi partoprenis 18 alilandanoj el 11 landoj. Unu el ili estis s-ino Grosjean el Svisio. Hodiaŭ ŝi afable partoprenis en nia kunveno. Ŝi montris multajn fotojn per sia komputilo. Ni ĝuis belajn pejzaĝojn de la svisa montara regiono, kie ŝi loĝas.

和歌山で行なわれた日本エスペラント大会の参加者は 480 人。外国からの参加者は、11 カ国から来られた 18 人でした。そのうちのひとり、スイスの Mireille Grosjean さんが例会に参加してくださいました。ご持参のパソコンに次々と表示される写真を、みんなで熱心にみました。彼女が住んでいる、スイスの山岳地帯の景色はすてきでした。
(相川 節子)



* 10 月 22 日(水)

De 7:00 ĝis 9:00 p.m. en la 22a de oktobro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 6: s-ino Grosjean el Svisio, s-roj KK, F, YN, s-inoj T, A.

Ankaŭ hodiaŭ s-ino Grosjean bonvolis partopreni en nia kunveno. Ni aŭdis pri multaj aferoj, interalie pri ŝia familio.

* 10 月 29 日(水)

De 7:00 ĝis 9:00 p.m. en la 29a de oktobro (merkredo), ĉe Esperanto-Kaikan ĉeestis 5: s-ino Bill Mak el Honkong, s-roj KK, YN, s-inoj T, A. Hodiaŭ ni havis gaston el Honkong. Li nun studas en la Universitato de Kioto kaj restos en Japanio dum jaroj. Li tre bone scias pri religioj en Japanio.

香港から来られたビルさん。京都大学で宗教について研究中の学生さんです。



左端がビルさん

第2回ボランティア・市民活動フェスタに出展

- ・日時 11月30日(日)午前10時～午後4時
- ・場所 京都市勧業館みやこめっせ(京都市左京区)
- ・概要

京都市福祉ボランティアセンターと京都市市民活動総合センターが主催する「第2回ボランティア・市民活動フェスタ」が行なわれ、133団体が参加。京都エスペラント会もブースを出しました。

下記の三択クイズは、当日の展示の一部です。

- (1)2008年は国連の定める「国際 年」。あてはまらないのは？
 - a 国際言語年
 - b 国際インターネット年
 - c 国際イモ年
- (2)エスペラントが作られたのは？
 - a 約250年前、産業革命の頃、世界貿易のため
 - b 約120年前、第一次世界大戦の前、民族間の平和のため
 - c 約60年前、第二次世界大戦後、新しい国際秩序のため
- (3)日本語でエスペラントの教科書を書いた作家は？
 - a 森鷗外
 - b 幸田露伴
 - c 二葉亭四迷

ほかに、当会を訪れた外国人エスペランティストとの交流のようすを写真で展示しました。

スイスからのお客さま、ミレイユさんが終日会場に詰めて、ブースを訪問した人たちの質問に答えてくださいました。

なお、展示ポスターや三択クイズは、後藤美和さんがこの日のために新しく作成されたものです。
(相川 節子)

Oni havis eventon en Miyako-Messe, granda publika domo kun ekspoziciejo. En la evento partoprenis 133 societoj, kiuj volontule laboras por handikapuloj, senhejmuloj, por amikeco inter nacioj ktp. Kioto-Esperanto-Societo estis unu el la partoprenantoj. Ni okupis unu budon kaj ekspoziciis pri nia agado per Esperanto. Svisa sinjorino Mireille bonvolis ĉeesti dum la tuta tago kaj respondis la demandojn de vizitantoj.



左から、ミレイユさん、ビルさん、ビルさんの友人、田平さん、森川さん



学生2人が熱心にエスペラントについて質問してこられました。

2008年エスペラント祭

平成20年12月7日(日)午後1時半～4時半、大津市ふれあいプラザホール4階の視聴覚室にて、近江エスペラント会が催し、宇治城陽エスペラント会、京都エスペラント会が協力し、2008年エスペラント祭が20人+knabinoの出席者を得て開催されました。

当会からは、正会員：後藤、川越、小橋、笹沼、準会員：山本、相川、吉川が参加しました。

プログラムは、

1. 講演(日本語)「私の国バングラデシュ」
講師：ロイ・ビッシュジド (Bishawjit Roy)氏(県立盲学校教諭)
2. ロッテルダムUK(世界大会)に参加して
講師：山本鳩江氏(宇治城陽エスペラント会)
3. エスペラントの歌
4. グループ・個人の出し物等

バングラデシュのビッシュジド氏は、生まれつきの全盲の方でダッカ大学から日本に留学され、鍼灸を学び、現在教諭として日本(彦根)で働いておられる方で、祖国を愛し、将来母国において日本で学んだ技術を広めたいという夢を持っておられる方です。お話はバングラデシュの全般的な紹介で、政治、経済、文化、言語等幅広く、驚く程正確な日本語で緻密な説明には、全員驚かされました。尚、エスペラントも勿論勉強されています。



ビッシュジド氏の講演

山本氏によりロッテルダムUK参加の感想をエスペラントと日本語を交えながら、同氏独自の哲学感から大会の意義や現地の運営等に関する詳細な報告をされました。



山本鳩江さんの講演

エスペラントの歌は、近江エスペラント会の指導にて、VIVU LA STELO と La krio の2曲を全員で歌いました。半ば休憩も兼ねての合唱は、大変癒されました。

本の感想・推薦を山本さん、相川さんがそれぞれ紹介されました。相川さん担当の本屋さんも賑わっていました。

西千寿子さんと後藤美和さんが、宇治城陽エス会の西村那智子さんと元京都エス会の堀部洋子さんを、各々目立たないところでエスペラント活動を支えておられる功労者として紹介されました。このような紹介の対象者を皆んなで選んではとの提案がありました。

そして飛び入りとして、川越が、今年の紅葉の写真を示しながら、紅葉の色の時間推移と葉の中の化学成分の変化と生成の関係についてのクイズを行いました。

最後に全員で集合写真を撮りお開きとなりました。

担当された近江エスペラント会及び協力された方々大変ご苦労様でした。

(川越 幹)

新会員の自己紹介

山内 利朗（やまうち としろう、京都市右京区）

会に加わらせていただいた山内と申します。北嵯峨に住んでいます。妻と保育園児の娘と三人家族ですが、エスペラントを勉強しているのは私だけです。

新入会員らしく、私が入会するまでのことを簡単に紹介しましょう。

エスペラントを勉強してみようと思ったのは、伊藤哲司さんという心理学者の『非暴力で世界に関わる方法』（北大路書房、2005年）という本の中に、次のようなことが書かれているのを読んだのがきっかけです。（その本は今見つけることができなくて、以下はうる覚えです。）

「友達の住んでる国と戦争し始める人がいますか？ 誰が友達の頭の上に爆弾を落としたりするのでしょうか？ そんな友達っていないでしょう。

アメリカ大統領のブッシュは、イラクに友達がいなかったのでしょうか。もし彼がイラクに友達を持っていたら、決して戦争など始めなかったでしょうから。

もし、エスペラントがしゃべれたら世界中に沢山友達ができますよ。これってすばらしいでしょう？ これは平和への大きな力です。エスペランチストは少数かもしれませんが、世界中に居るんですよ。」

（次ページへ）



リトアニア人（左の2人の女性）と山内さん（右）

世界中に友達を作ることが、そのまま平和を守ることにつながる、という「思想」が大変気に入ってしまい、その手段としてのエスペラントにも強く惹かれました。

早速、藤巻謙一氏の『はじめてのエスペラント』を入手し、ザメンホフの伝記を読んだりしながら勉強を始めたのが2007年の3月でした。インターネットの学習サイト「lernu!」や交流サイト「Amikumu!」に登録して読んだり・誤文を書いたりしているうちに、外国のエスペランチストからメールが来るようになりました。

2007年は日本で世界大会があるということで、日本人のエスペランチスト・学習者はいろいろとインターネットで検索の対象になっていたのでしょう。

8月の大会後には、事前にメールでやりとりしていたリトアニアの人たちからの指名で、一日だけですが観光案内しました。京都案内自体が初めての体験ではありましたが。

このリトアニアの人たちは大変忍耐強く話しかけてくれましたので、私にとっては非常に強烈なエスペラント体験となりました。

ゆっくり話してもらえれば英語もある程度わからないではないですが、こちらから何かを話すとなると、単語は思い出せないし、発音には自信がないし、はっきり伝えようと思うと、子音に母音がついてまわるし(カタカナ英語)、相手は舌打ちしたり、「もう、いいや」という表情をされてしまうことばかりでした。ここは日本だというのに、英語を言い間違えて「チッ!」と舌打ちして手で払われたこともありました。

ところが、(事前に、エスペラントも英語も全然できないと散々メールで書いたおかげか)このリトアニアの人たちは、こちらが単語を思い出すのに唸っていると、いろいろと単語を挙げて助けてくれたり、私が話せそうな話題を選んでくれたりして、おかげですっかりエスペラントのファンになってしまいました。その後もエスペラントを勉強し続けているのは彼らのおかげです。

それにしても、エスペラントではほとんど会話できず、身振りとメモ紙に描いた絵と相手の好意とで何とか「通じた」に過ぎませんでした。

リトアニアのエスペランチストの人たちからは、rondoに入ると良いよ、と言われていたのですが、私もまた何かの機会が巡ってくればもう少しマシンな会話もしてみたいと願っていました。8月31日から開催された「国際活動パネル展」を拝見しに行つて、熱心にお誘い頂いたのと、洛外でパソコン相手にブツブツ言っているよりももう少し「窓」を広くしておいたほうが、楽しい機会のめぐり合わせも良くなるかな、と入会に至った次第です。

諸事情から例会への参加は当面困難ですが、機会があれば楽しく参加させていただきたく思います。よろしくお願いします。

(終)

La Movado 誌上で当会会員が活躍しています

相川 節子

関西エスペラント連盟の機関紙 La Movado を毎月お届けしていますが、目を通してくださっていますか。

最近、La Movado 誌上で、京都エスペラント会の会員の活躍が目立ちます。

まず、「源氏物語」を連載しておられる藤本達生さん。すっきりと美しい訳文に、毎回感服しています。仮にわたしが訳したら、だらだらとくどい文体になり、倍ぐらいの長さになってしまうでしょう。それに、和歌を理解できないとこの作品を訳すことはできませんから、もともとわたしには無理なわけです。

藤本さんは、日本語でも短歌をたしなんでおられると聞いています。藤本さんならではのおしごとだと思えます。

エッセイのページ Kajero libervola は、2008年10月現在、宮本聖子さんが隔月に書いておられます。宮本さんならではの社会的テーマがとりあげられていて、毎回うなずきながら読んでいます。

以前はわたしも書いていた Kajero libervola ですが、作文教室を担当することになったため、宮本さんに代わっていただいたのです。

最近では会員名簿を発行せず、役員と発送作業担当者だけが会員を把握しているので、藤本達生さんはともかく、宮本さんが京都エスペラント会の会員であることをご存知ない方も多いのではと思います。

1年間の約束でしたので、宮本さんの出番はもうすぐ終わります。バトンを受け取るのは、これも当会の会員、後藤美和さんです。(この原稿を書いている時点ではまだ公表されていないのですが、ないしょにするほどのことでもないのです、ばらしてしまいます。)

相川・宮本・後藤と、より若い世代へとバトンが引き継がれていくことを、何よりもうれしく思っています。

書評などの単発記事でも、当会会員の手になるものが時々載ります。たとえば8月号に、BEKkurso という本の書評を津田昌夫さんが書いておられます。お住まいは神戸市ですが、ずっと以前から当会の会員で、京都に住んでおられた頃には、入門講習の講師を継続的に務めてくださいました。先日の日本大会の書籍売場で BEKkurso がすぐ売り切れてしまったのは、津田さんの書評の効果と思われれます。

これからも、会員のみなさんのご活躍を期待します。

(2008.10.26)

“La Edzino de Hanaoka Seisyû”

--- Novelo, kiu similas al kemia eksperimento ---

Aikawa Setuko

La japanlingva novelo “La Edzino de Hanaoka Seisyû” estis eldonita en 1966. Mi legis ĝin en la sama jaro. Mia kolego pruntis ĝin al mi.

Ĝin oni alte taksis kaj prezentis ĝin kiel teatraĵon, filmon, televidajn dramojn. En 2005 mi vidis dramon elsenditan surbaze de tiu verko.

Esperanta versio estis eldonita kiel memoraĵo de la 95-a Japana Esperanto-Kongreso. La scenejo de la novelo estas la gubernio Wakayama. Konvena memoraĵo al la kongreso, kiu unuafoje havis lokon en la gubernio.

La novelo priskribas pri la familio de Hanaoka Seisyû (1760-1835), kiu estis elstara kirurgo. Li estis la unua medicinisto en la mondo, kiu operaciis mam-kanceron en anestezo per tiucelaj substancoj. La anestezilon li mem aranĝis post multjaraj esploroj kaj eksperimentoj.

La temo de la novelo tamen ne estas lia vivo, nek lia kontribuo al la medicino. La aŭtoro priskribas pri liaj patrino kaj edzino. La rilato inter tiuj du virinoj estas la ĉefa temo.

La edzino de Seisyû estas nomata Kae. Kiam Kae venis al la familio Hanaoka kiel novedzino, la edzo estis for. Li tiam studis en Kioto kaj revenis nur post tri jaroj.

Edziniĝo sen edzo! En la novelo estas klarigo pri tio:

“...Tia nupto estis ja malofta, sed ne riproĉinda. La virinoj en tiu tempo edziniĝis pli al la familio ol al la edzo. Kvankam akceptita dum la foresto de la novedzo, la pozicio de la edzino ne estis malstabila, se la heredonto de la familio certe revenos.” (p.26)

Dum tri jaroj Kae vivis en la edza familio sen edzo. Ŝi tamen estis feliĉa. Ŝi kune laboradis kun la bopatrino kaj bofratinoj en teksado kaj hejmaj laboroj. La bopatrino estis ĉiam afabla al Kae. Kae (kaj supozeble ankaŭ la bopatrino) kredis, ke ili havas bonan rilaton kvazaŭ veraj patrino kaj filino.

La feliĉo tamen finiĝas en la tago, kiam la edzo revenas. Inter la du virinoj estiĝas ia streĉo kaj malamikeco. Nun ili estas rivaloj, kiuj deziras superi la alian en proksimeco al la sama viro. Ambaŭ virinoj estas inteligentaj kaj tial ili ne kverelas videble al la aliaj homoj. Des pli la malamikeco fortiĝas kaŝite en iliaj koroj. Kaj en tia situacio la edzo komencas provi sian anestezilon je la patrino kaj poste je Kae. Ili estas kvazaŭ kobajoj en

laboratorio.

Kiam mi legis la novelon unuafoje, mi pensis, ke ĝi similas al kemia eksperimento.

Supozu, ekzemple, ke oni eksperimentas pri iu enzimo(酵素). Al funkcio de enzimo influas diversaj kondiĉoj: temperaturo, pH(denseco de hidrogen-jonoj), atmosfera premo ktp. Por esplori pri influo de temperaturo al la efikeco de la enzimo oni aranĝas, ke la aliaj kondiĉoj estu samaj kaj nur la temperaturo estu variaj. Tiamaniere oni povas scii, kiamaniere la temperaturo influas al la funkcio de la enzimo.

En la homa socio en Japanio rilato inter bopatrino kaj bofilino ĉiam havas problemon. Konflikto okazas aŭ pro diferenco de la kutimoj, en kiuj vivis la bopatrino kaj la bofilino, aŭ pro diferenco de la pensmanieroj propraj al la respektivaj generacioj.

En la novelo la aŭtoro metis la heroinon Kae en la situacion, kie la supraj kondiĉoj restas sen ŝanĝoj. La sola ŝanĝiĝo estas foresto aŭ ĉeesto de ŝia edzo. Kiam li estis for, la bopatrino kaj la bofilino povis vivi amike. Kiam li revenis, ili fariĝis rivaloj kaj la nevidebla batalo daŭras ĝis la morto de la bopatrino.

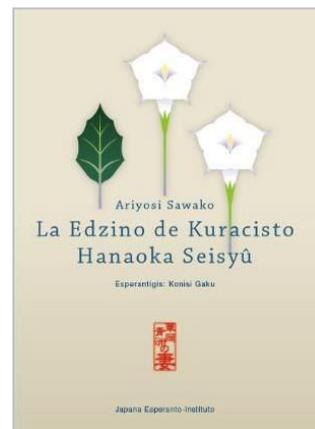
Sciencistoj faras kemian ekzamenon per provtuboj en laboratorio. Verkistoj faras ekzamenon per plumo en sia verko.

Estas fakto, ke la patrino kaj edzino de Seisyū estis kobajoj, sed la kaŝita batalo inter ili supozeble estas fikcio por la eksperimento.

(2008.11.8)

< 要約 >

第 95 回日本エスぺラント大会の記念品として「花岡青洲の妻」のエスぺラント訳(右)が発行された。実在の医師の家庭を描いているが、テーマは彼の医業ではなく、彼の母親と彼の妻、つまり嫁と姑の関係である。この小説は、化学の実験に似ている。



PRI LA ŜANĜIĜO DE KOLORO

KAWAGOE Kan

Mi supozas ke vi tre ĝojis la acerojn de ĉi tiu aŭtuno. Mi partoprenas en ia klubo de foto. Pro tio mi fotis multajn fojojn. Do mi momente pensas kial la koloro de aceroj ŝanĝiĝas laŭ la sezonoj.





Se diri ĝenerale, la arbofolio estas verda. Pri foliarbo, la koloro de folioj ŝanĝiĝas de verda al bruna. Fine ili falas. Kaj oni sentas malvarman vintron.

Nun, acero montras verdan folion de printempo ĝis aŭtuno. Ĉar la folio enhavas klorofilon.

Sed estas malvarme en mallongo de sunluma tempodaŭro. Klorofilo estas malkombinata. Kaj ŝtopilo estas farita en la radiko de folio. Pro tio la novaj ingrediencoj estas faritaj tiel sakaridoj.

La koloro de flavo dependas de karoteno. Ĝi aperas laŭ malmultiĝo de klorofilo en folio. La koloro de ruĝo dependas de antociano. Sakaridoj de folioj faras ĝin per ultraviolaj radioj. La koloro de aŭtuno pli kreskis, kulmino de acero pasis, koloroj de folioj bruniĝas. Kaj per tanino, ili ŝanĝiĝas en mortfolion.

Supre skribitaj ingrediencoj ankaŭ efikas al la sano de homoj. Klorofilo estas efika al stomako, intesto kaj plibonigo de imuneco. Karoteno estas efika kontraŭ oksidado kaj kancero. Antociano estas efika al sano de okuloj krom oksidado. Katekino de teo, maldolĉa ingredienco, estas unu speco de tanino. Kaj tanino estas efika al reguligo de intesto.

Kiel vi komprenas bone, supre skribitaj ingrediencoj estas sciataj kiel sanaj manĝaĵoj. Kiel ekzemple, naturo estas bonega kemia fabriko, ĉu ne?

<用語>

acero カエデ(楓)	antociano アントシアン(植物の花に存在する色素)	foliarbo 広葉樹
ingredienco 成分	intesto 腸	karoteno カロチン(生物に含まれる色素)
katekino カテキン	klorofilo 葉緑素、クロロフィル	oksid/ad/o 酸化
tanino タンニン	sakarido 糖類	

La Redaktoro babilas ...

Ni vigle agadas en Kioto! (3~12 ページ)で紹介されているとおり、京都エスペラント会の例会(毎週水曜日)に外国人エスペランティストが多数訪れています。日本国内のエスペラント会の中でも最も多いのではないのでしょうか。観光都市・京都という地の利があること、エスペラント会館という場所があること、熱心な会員がいることが大きな要因でしょう。

2008年、本誌は3回発行できましたが、編集計画は何も立てず、会員個人の寄稿にお任せしていました。来年は編集計画を立て、内容をより充実していきたいと考えています。

皆様からの積極的な寄稿もお待ちしています。



本誌の電子ファイル版

本誌は94号(2008年4月)より電子ファイル(PDFファイル)版も作成しています。印刷費用の都合で印刷物は白黒ですが、電子ファイル版の写真はカラーで見ることができます。電子ファイルを手入れされたい方は、本誌編集局(下記)までお問い合わせください。

Al Vi Kara N-ro 96, eldonita en la 24a de decembro, 2008

京都エスペラント会 Kioto-Esperanto-Societo

事務局

〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6 エスペラント会館

電話・FAX : 075-958-2475 (川越 幹)

ブログ : http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/

電子メール : esperanto_kioto@yahoo.co.jp

会費 : 正会員 年7,200円 準会員 年3,600円

ゆうちょ銀行(郵便)振替口座 : 01000-4-9895 口座名 : 京都エスペラント会

Al Vi Kara 編集局

連絡先 : 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町尻江 13-8 森川和徳

電子メール : kz_morikawa@yahoo.co.jp